

自動車向け接合技術開発

小学生の頃、パン工場を見学した。パンを作る機械が人を助け、人の代わりにさまざまな作業を行っていた。それを見て将来、人を助ける機械を作りたいと思い、自分を助けてくれるので一番身近な機械である「自動車」メーカーを志望した。

入社後の配属先は生産技術本部車体技術部。設計から上がってきた図面をもとに、設備の改造を織り込みながら、いかに低コストで精度よく短い時間で車を作るか、を突き詰めていった。

凛としていきる

理系女性の挑戦

目的持てる仕事環境構築

2004年からは新車「シルフィ」の立ち上げ業務に配属となった。まだ女性社員が少ない時代であり、自動車の重い部品を持つ際など男性との体力差に

悔しい思いをしたこともあった。だが、誰にも得意不得意はあると多くの先輩方の助言を聞き、何とか周囲に助けてもらった。一方で体力的な不得意を生かそうと、人に優しい車の生産ラインを作る勉強と提案をした。

人になった。大学の研究は個人だったが、会社は組織である。会社ではいかに人を巻き込むか、いかに人に巻き込まれるか、がとて大切だ。技術屋として自分の技術力を高めることはもちろん必要だが、一人では何もできないと痛感した。



博士課程を経て社会接合要素開発グループのメンバーと

4月から、5年後の車を使う接合技術の開発を担う「接合要素開発グループ」の管理職となった。現在の立場も一人では何もできない。自分の手を動かすことは少なくなったが、グループメンバー

の得意不得意を理解し、互いに技術力を上げるために切磋琢磨する日々だ。

大変なこともあるが、メンバーと過ごす時間の楽しさの方が大きい。仲間たちと進路を共有して同じ方向へ進み、車の未来に自分たちが貢献できていることにワクワクする。

このワクワクを共有して、各自が目的をもって仕事をす環境をつくっていくことが管理職としての志である。

私の趣味は「娘」である。週末のほぼすべの時間を10歳の娘の習い事に付き添って過ごしている。娘の成長を見ると、日々助けて



▽ (火曜日に掲載) △
日産自動車車両生産技術本部要素技術開発グループ主担
渡辺 由布 (わたなべ ゆふ)

＜プロフィール＞02年名古屋大学工学研究科博士修了、同年日産自動車(株)入社。車両生産技術本部に在籍。*JWFF 法人会員。